

Brali

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

テーマ「旅先から見たニッポンのイトコ、ワルイトコ」／旅先の変な日本語／エッセイ「旅トキドキ・・・」／旅人からの伝言「特集ラオス」／一本の糸で世界をつなぐチャリの旅／自炊派の手料理／エッセイたびたび／アジア漂流日記／最も楽に安くアンナプルナB Cに行く方法 他

Vol. 10

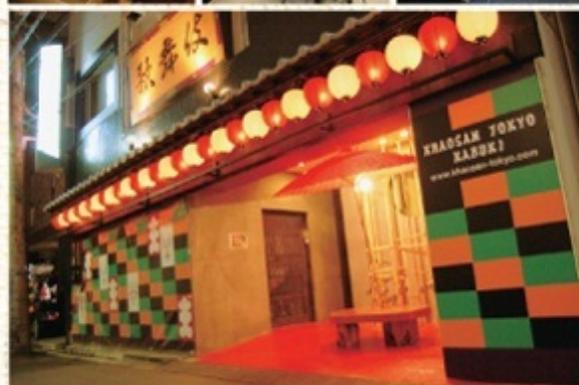


Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる!

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。
国際交流をしたい! 安く快適に泊まりたい! 楽しくにぎやかに滞在したい方!
観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



TOKYO

NINJA

1泊/2200円~

ORIGINAL

1泊/2000円~

SAMURAI

1泊/2500円~

ANNEX & SMILE

1泊/2000円~

KABUKI

1泊/3000円~

KYOTO

1泊/2000円~

BEPPU

1泊/2000円~

FUKUOKA

1泊/2400円~

THIS IS YOUR BACKPACKER

旅人の数だけ違った
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

LIFE.

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？もしあなたがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度
2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線,
洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

越境！ バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、
そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、

「金の北米、女の南米、
数々のバックパッカー名言 & 格言。
耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、
問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジプシー ノマド ボヘミアン etc...

行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。
「日本人宿 / ガイドブック / 節約ピンボー旅 / 夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、
いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！

スマホ, Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。 **旅は変わっちゃまったのかい？**

バックパッカー新聞、 旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人
との出逢いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。

創刊です。 わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、
そしてこれからバックパックを担いで旅に
出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩

Instituto Cultural Oaxaca

メキシコスペイン語語学学校





世界歴史遺産内に立地する日本人スタッフ駐在校にてスペイン語を学んでみませんか？

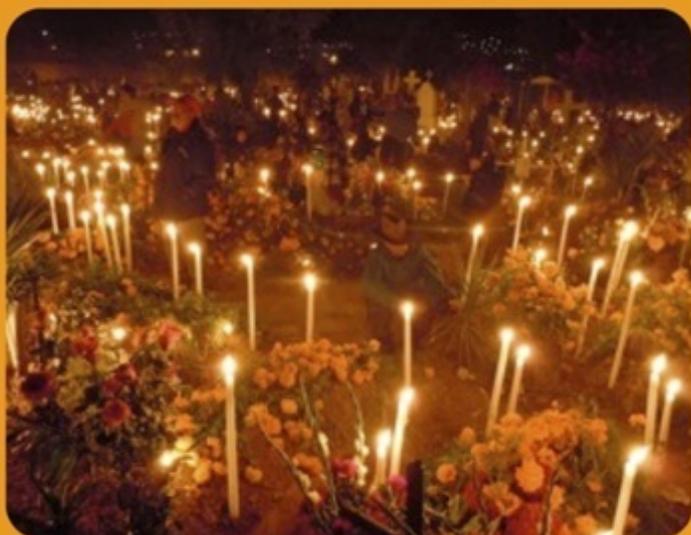
週末には結婚式に使われる程の**広大で綺麗な庭**、街中心部にほど近い**抜群の立地**、気持ちの良い環境でのんびりとスペイン語を学んで頂けます。

当校の誇る経験豊富なメキシコ人講師による**質の高い授業**できっと皆様の満足ゆく学習効果を得られる事でしょう。

1日3時間の文法コース。4時間の集中コース。インテルカンビオや文化研修クラスの入ったメインコース等、それぞれの目的にあった多彩なコースをご用意しています。



7月に行われる各民族ごとの大ダンス祭りゲラゲツツアやメキシコの中でも特に幻想的な雰囲気祝われる10月、11月の死者の日などに合わせ、**特別コース**を開催しています。スペイン語で各行事について学びながら当校にて開催されるアクティビティで各行事を実際に体験して頂けます。



午後に行われる文化研修クラスではサルサ、陶芸、木工細工、織物、オアハカ料理と、伝統の文化をご自身で体験して頂けます。

死者の日には当校で開催されるパレードに合わせてオリジナルのお面を、クリスマスには伝統的なくす玉であるピニャータをお作り頂けます。



☆織物教室



☆陶芸教室



☆オアハカ料理教室



☆木工細工アレブリーヘ教室



☆サルサダンス教室



詳しくは当校日本語版ホームページにて。
又は日本人スタッフ八木まで
お気軽にご連絡下さい。
皆様のご来校、スタッフ一同心より
お待ちしております。

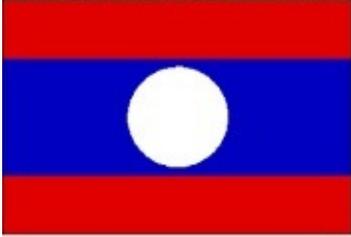
info.jp@icomexico.com

[http://www.icomexico.com/
jp/
index.php](http://www.icomexico.com/jp/index.php)



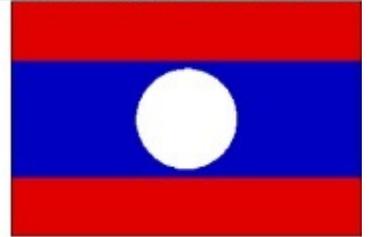
CONTENTS

- 旅人からの伝言 「特集 ラオス」
- 不発弾と共に生きる
- 旅先の変な日本語
- テーマ「旅先から見たニッポンのイトコ、ワルイトコ」
- 時間の感じ方を体験しよう
- 助けあうということ
- エッセイ「旅トキドキ……」
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 最も楽に安くアンナプルナBCに行く方法
- 自炊派の手料理「コーラと白ワインで簡単肉じゃが」
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅の小ネタ（ミャンマービールのあたり）
- Brali Photo（誌上写真展）
- 作者・情報提供者一覧
- 編集後記
- 次号予告
- 記事募集



自然が観光資源の最後発国

ラオス



豊富な自然資源と高い食料自給率を保つラオス。自然豊かで人も温厚な牧歌的なイメージのラオスだが、世界有数の不発弾が眠る国土でもある。今回はそんなラオスの影の部分に光をあてた記事をご覧ください。

★DATA

ラオス人民民主共和国

人民民主共和制

首都はビエンチャン

公用語 ラオス語

面積 24万平方キロメートル

人口 553万人

通貨 キープ

低地ラオ族 (60%)、その他計49民族

日本との時差: マイナス2時間

電圧220ボルト、電源プラグ:C

気候: 1年を通じて熱帯モンスーン気候

ラオスの渡航情報: 一部を除き、概ね「十分注意してください。」(継続)



不発弾と共に生きる

■Writer&Photographer

高江洲直己(タカエス ナオキ)

■Age

27歳。

■Profile

沖縄出身。2012年8月から12月にかけてアジアを旅して回る。旅では様々な環境で生きる人たちと触れて回る。本旅終了後も次なる旅を計画中。

旅のブログ→高江洲直己公式サイト<http://naokitakaesu.tumblr.com/>

ラオスは世界でも有数の不発弾の埋まる地だ。ベトナム戦争時代、北ベトナム軍が南へ物資を補給する際に使ったという俗に言うホーチミン・ルートが、ラオスの山間部を抜けていた。アメリカ軍はこのルートを叩くために大量の爆弾を投下したのだ。その数約300万トンとも言われている。当時のラオスの人口が約300万人ということから、1人あたり1トンもの爆弾が投下されたことになる。そのうち2割の爆弾が不発弾として地中に埋まり、今尚爆撃の激しかった地域は爆発の恐怖にさらされているのだ。

僕はラオスを旅する際には、不発弾と共に生きる人々に触れてみたいと思っていた。そして、ラオス北部に位置するシエンクアン県を訪れた。いくつかの村へ赴き、人々と時を過ごし、話を聞いた。今回は話しをしてくれた村人の1人、モン族のジャイキーの話しをしたいと思う。

ジャイキーに話しを聞きに行った時、彼は初めにこう言った。

「話しをするのは構わない。けれど、写真を撮るのは私たちのために何かし

てくれる人や団体だけにしている。爆弾の傷跡を見せることは、とても恥ずかしいことでね。だから傷跡を見せることによって何かこの村が良くなるのなら、私は見せて、写真も撮らせているよ」

彼の切実な声を聞いたと思った。傷跡を見せることは決して心地よいはずがない。僕は正直に応えた。

「僕はボランティア組織に属しているわけではなく、団体を動かす力もないし人脈もない。僕にできることはwebなどであなた達の現状を書いて発信して、日本人の友人たちに伝えることだけです」

写真を撮ることを承諾してくれたのかは分からないが、彼は家の中へ案内してくれた。無理にお願いするつもりはなかった。



家の中の明かりは、日の光が入り口から差し込むだけで薄暗かった。ほのかな闇の中で彼は喋り出した。

ジャイキーは3人の子どもを持つ一家の大黒柱だ。話しは今から20年程遡った1991年の頃になる。

「あの日もいつもと変わらず、私は農作業に勤しんでいたよ。けれど、あの日は不運だった。鍬を入れた土の中に不発弾が埋まっていたんだ。不発弾は爆発して私の体を吹き飛ばした。けれど私は生きていた。かろうじて意識も保っていたが、足の被害がひどかった。私は血まみれのままドクターの家に行ったよ。私のありさまを見てドクターはこう言ったんだ。

『急いで町の病院へ行くべきだ。治療を受けなさい。恐らく足の付け根から切断することになるだろう』

私は病院には行かず家に帰ったよ。どうしても足を切断したくなかったんだ。治療費もバカにならないというの

もある。けれどそれよりも、足を切断したら働けなくなるだろう。そしたら誰が家族を養うんだ。そのうえ、私の面倒を見るためにさらに働き手を失うだろう。ならば足を切断するなら私は死んだ方がまだ、と思った。家に帰り、足を補強して、回復するのを待ったよ。幸いにも私は回復して、足も足首から下を失うだけですんだんだ。私は、まだ働ける」

からがら繋いだ命も投げ出す覚悟だったという。家族に迷惑はかけられない、と。きっと家の奥に見える床の間で彼は、今にも死ぬかもしれない状況を何夜も超えたのだろう。

戦争を恨むか、アメリカを恨むか。何にしる恨むべき対象は大きくてボヤけている。

ジャイキーは事件のことを一通り話し終わると、履いていた長靴を脱ぎ、裾をめくってみせた。失った足首を見せてくれた。

「多くの日本人に伝えてくれ」と言って写真を撮ることを許してくれた。そして僕は、彼が恥ずかしいと言った傷跡にカメラを向ける。シャッターが重い。

話しがひと段落すると、ジャイキーは僕にランチを食べていかないか、と誘ってくれた。そのことが単純に嬉しかった。差し出された米は彼が被曝した畑で採られた米だ。テーブルには他に豚肉と野菜を炒めたものが並ぶ。塩がきつめに味付けされていた。ベトナムのモン族を訪ねた時と同じ味だ。スプーンは、昨日訪ねた村で生産されているスプーンだった。その村では不発弾や地雷から得たアルミニウムを使ってスプーンやアクセサリーを作っている。



食事中に僕は尋ねた。
「また農作業をすることは怖くはない
ですか？」

と。ジャイキーは無表情のまま応え
る。

「怖いけれど、家族を養うためには農
作業するしかないんだ。私たちは他に
選ぶことが出来ないんだよ」

選ぶことが出来ない……。いくつか
の村を訪ねて幾度か聞いた返答だっ
た。この辺りでは、不発弾を解体して
鉄くずを売って現金収入を得ている人
も数多く存在する。他、農作業など限
られた生産手段しか知らない彼らは
時々同じことを口にした。「私たちは
選ぶことができない」と。自分たちを
苦しめ、大切な人を奪っていく爆弾と
寄り添い生きていく。そこには私たち
には到底理解できない程の複雑な感情
が存在するのだろう。

僕は村々を訪ねてずっと気になって
いたことを聞いた。

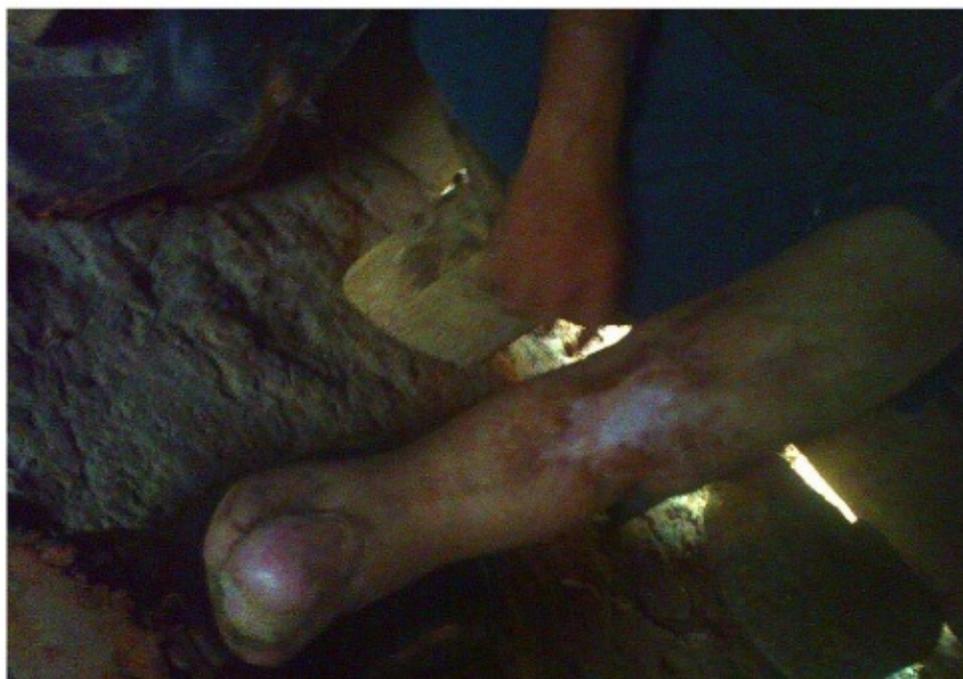
「たくさんの村人が被害を受け、今尚
不発弾や地雷に苦しんでいるのに、ど
こか他の場所へ移る気はないのらう
か」

ということだ。

ジャイキーは間をおいて答えた。
「ここには不発弾や地雷もあるが、私
たちの畑もある。家もある。何より家
族や友人がいる。私たちは助け合って
生きていくことができるんだよ」

人が生きていくうえで、何より大切
なモノは、深く信頼しきった人の中で
人生を過ごせることなのかもしれない。
迫害の歴史を持つモン族ならなお
さら身に染みているはずだ。彼らは不
発弾から逃れるよりも、愛し合った人
たちと爆発の恐怖に耐えながら支え合
うことを選んだ。それとも、それすら
も選ぶことの出来なかったことなのだ
ろうか。

ラオスを旅して感じることは、不発弾
に苦しむ村に住む人々の遅しさだ。爆
弾によって身体も心も傷つけられなが
らも、その爆弾と寄り添い、それすら
も利用して生きている事。悲惨な過去
を持ちながらも、それでも笑って生き
ていること。土地を、家族を、仲間を
愛する人たちが、今より幸せになれま
すように。僕は僕の出来るやり方で彼
らとこれからも関わっていこうと思
う。



日本語



旅先の

海外の旅先で見かける、どう見ても変な日本語。看板やメニュー、商品やチラシに至るまで。笑わせてくれる「変な日本語」をTwitterで集めて見ました。



「ココゾ」ってなんだか気合を感じますが、別にスタミナドリンクの類ではなさそうですね。海外のこういった意味のない日本語の商品名ってどうやって決まるのかに興味があります。

提供：Akari Misuさん

<広告>



MAISON D`HOTE AMANDE CHEZ NORIKO

「モロッコのグランド
キャニオン」と呼ばれ
るトドラ渓谷までのん
びり徒歩30分で行ける
日本人が経営するアッ
トホームな宿。
バルコニーからは一枚
岩が眺められ、手前の
畑にはアーモンドの
木々が見え春にはサ
クラのような花が咲き
花吹雪を楽しむことが
できる。

◆料金◆

宿泊代 70DH
朝食 20DH
夕食 50DH
洗濯機使用料 10DH

◆設備◆

部屋数4室
サロン
大きめのバルコニー
Wi-Fi
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な
小さな宿



◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO
TODRA GORGE

旅先から見た

ニッポン の イトコ、ワルイトコ

外国に出てから、日本の良さを感じるようになった。それと同時に思うのは「これを築いたのは誰なんだ？」ということ。オレたちではない。こんな裕福な今日（こんにち）の日本があるのは、先代の人たちの頑張りのおかげだと思っている。オレたちは、彼らが頑張って汗水たらして残してってくれたもののおかげで生活できていると思う。それが今、いろんな面でまさしく危機を迎えている。オレが言うまでもなく、いろんな人が「日本はそのうち破綻する」と言うのが聞こえてくる。「なんでそうなったのか？」ということを考えないと。今のオレたちは何も築いていない。先人の財産を使ってきただけ。感謝して、今からもう一度、頑張らないといけないんじゃないか。それなのに浪費した揚げ句、責任のなすり合いが、どの場面どの分野でも繰り広げられているように見える。海外から見ると、より一層、強くそう感じる。

本田圭佑

時間の感じ方を体験しよう

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ~実況！旅人アワー~

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

敢えてありがちなテーマ「時間の感じ方」についてお話しさせていただきます。

「海外では電車の時刻表はあって無いようなものだよ」と聞いたことはありませんか？「バスに時刻表なんてないですよ。集まり次第動きます」とか聞いたことありませんか？

是非海外に出て「時間のルーズさ」を体験してください。日本との比較がすぐにできます。

アフリカはタンザニア。大都市ダルエスサラームからザンビアのニューカピリムポシに向かう列車があります。旅人に有名なタンザン列車（タザラ鉄道）です。週に2本の便数で、切符は事前に買うことができます。

私はダルエスからマラウィ国境付近のムベヤという町までのチケットを買いました。

購入時に

「何時に出発するの？」

と聞くと、回答は

「恐らく、15時ごろだと思う」

結局、定刻ってないんですね。だいたいこの時間というやつです。もちろん時刻表には書かれていますが、時間通りに動いたためしがない。

電車内は男女別のコンパートメント。同じ部屋にはザンビア人とタンザ

ニア人がいました。彼らに「ムベヤに何時に着くか知ってる？」と聞くと

「だいたい24時間後だ」

ときます。そうなんです「だいたい」なんですね。到着時刻なんて誰も知らないんです。それで困る人はいるかもしれないですが、許されてしまうんですね。それがこのタンザン電車。目的地に20時間で着いた人もいれば36時間かかった方もいるそうです。

しかし、列車を下りればどんな時間でも待っているバスの運転手、タクシーがいます。きちんとした(?)仕組みが出来上がっています。

彼らは遅れたからと行って一言も文句を言いませんし、「よくあることさ」と流します。

スワヒリ語で「ポレポレ」という単語があります。のんびりという意味です。タンザニアの方にポレポレというと「そうだよ！」といった笑顔が返ってきました。

時間に縛られる必要のないアフリカ(一部の国ですが)、こういう生活もありかもしれません。

これを日本と比較してみましょう。東京の山手線。朝の通勤ラッシュで1分遅れただけで「ご迷惑をおかけして誠に申し訳ありません」と車内アナウンスが流れますし、駅員も謝ります。

そんな1分程度で謝らなくてもいいのに、と思うのは私だけでしょうか？

日本の悪いところですよ。1分2分を焦って生活する。余裕がないように感じます。ま、私のような旅人がこんなことを言うと怒られるかもですが、こうして日本経済は成り立っているのでしょうか。高速バスの発着時間までが正確というのは世界的に見ても珍しいと思います。

ただ、その「時間に厳しい」というのは日本のヨイトコロでもあります。観光バスが集合時間を忘れたケースとか稀ですし、個人個人のアポイントも5分前行動が基本です。

そんな優れた日本の「文化？」を是非世界に教えてあげたいです。誇らしいと思います。

エチオピアでのお話です。エチオピアの長距離移動では主に大型のバスを利用するか、ミニバスと呼ばれるトヨタのハイエースに人を詰め込んで発進する、2タイプがあります。後者の場合事前に予約が必要なケースがあります。

青ナイル川付近のバハルダールという町から世界遺産の教会群があるラリベラへ向かう時です。

前日にミニバスを予約して朝の3時集合と予約しました（エチオピアの場合法律の都合上、夜行バスが禁止されており早朝発のバスが多々）。



当然3時前には来るだろうと思いロビーで待機するものの、全く車が来る気配がありません。受付に電話をしてもらい宿に着いたのが30分後。そこで出発できるかなと思いきや、「もう少し待て」と意味不明の発言。

結局6時に出発することになったわけです。

3時の予約は何だったのか？ 6時なら普通のバスに乗れましたけれど？

なんで遅れたのか？ いろいろ質問しても答えは返ってきません。当然「Sorry」というはずもありません。

日本ならすぐに謝罪、いやむしろ事前に連絡があるかもしれません。しかし、ここはエチオピア。結果として「出発」さえすればいいのです。日本の「時間に対する誠実さは半端ないなあ」と痛感しました。

このような事がエチオピアのバスでは続きます。最初はイライラしますが、郷に入っては郷に従え。徐々に慣れます。ただ、悲しいかな。せっかく慣れたこの感覚も日本に戻るとすぐに元通り。数分の遅れでイライラするようになってしまいます。

私は基本的にセッカチな人間です。それでもアフリカに行けばそれなりにセッカチではなくなります。不思議ですよ。

そんな「時間」に関する感覚は海外に出るとすぐに感じれます。私は今オーストラリアにいますが、先進国の豪でさえ日本に比べれば「時間的ルーズ」な面はあります。

是非海外に出て、「日本の良し悪し」を考えてみてください。

新しい気づきがたくさんあるはずですよ。

助けあうということ

田中美咲

全ての生きとし生きるものが幸せでありますように。少しでも多くの人が心から幸せである世の中を創りたい。

228日6大陸12旅26カ国64都市旅してきました。前世はインドの姫、全大陸野糞経験者です。

・田中美咲ブログ

<http://ameblo.jp/awesome-misaki/>

・助けあいジャパンプログ

<http://blog.canpan.info/tasukeaijapan/?1354673457>

2011年3月11日の東日本大震災があって、それ以降、旅をしていて周りの人からかけてもらう言葉がガラッと変わったのを感じました。

「日本は大丈夫？」

「まだ大変なの？」

と旅に出てすごくよく聞かれる。

「私たちも少しだけ募金したよ」

と裸足の女の子たちに言われた。

「日本人だからサービスしとくね」

と1つ10円のおかゆを屋台で売っておじさんに満面の笑顔で言われるようになった。

これまでいろんな国を旅してきて、たくさんの方の国のイトコ・ワルイトコを見てきて、心がわくわくしてたまらなくて、だから旅を続けてきました。

ただ、今でも世界の方は日本の『東日本大震災』の現状や日本人の安否を気にしているというのに、私が本当のところ全く知らなかった。テレビやネットで見た情報をなんとなく自分流にまとめて英語で話して説明するくらいで、「真実」を伝えられていなかった。

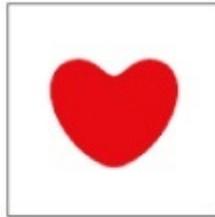
そこから、私は給料も高く環境も良すぎる最高のIT系ベンチャーを辞めて、「公益社団法人助けあいジャパン」に転職しました。“会社員”としてはある程度評価していただいていたけれど、“社会人”“日本人”とし

てはなんの知識も活動も貢献も出来ない自分が情けなくて。日本人代表として旅をしていて、日本の事を伝えられるバックパッカーでありながら、ただ旅をしているだけになっていたことに気付かされました。

「助けあいジャパン」は、東日本大震災が起きてすぐ立ち上がった団体で、情報産業の有志の集まりです。東日本大震災が起こるまで、点で散らばっていた数百人の仲間が、ソーシャルメディアを通じて集い、被災者や被災地のために情報による後方支援活動をしています。

震災から1年9ヶ月経ちましたが、被災地は復興もできていない、被災中といっても過言ではないです。そんな被災者・被災地のために、みんなが少しずつ「できること」を持ち寄る。小さな点がやがて線になり、面になる。「助けあう」ということ。そんな活動をこれからも続けていきたいと思っています。

仕事をしながら、旅をしながら、日本人の「イトコロ」である「助けあう」というところを。私たちの日本で、今一番必要としています。海外旅してたら忘れがち。灯台下暗しってやつかも。



3.11復興支援情報サイト 助けあいジャパン

復興庁 連携プロジェクト

3.11 Reconstruction Aid Information Portal **Tasukeai Japan**
in cooperation with the Reconstruction Agency

活動概要



できるだけ正確な情報をとどけること。
助けたい気持ちがある人の、ヒントやきっかけになること。
そして、過去にしないこと。いっしょに未来をつくること。

東日本大震災を受け、当プロジェクトは迅速に立ち上がりました。

発災翌日に「必要な場所に必要な情報をすばやく届けるサイトが必要」との趣旨のプレゼンを仙谷官房副長官（当時）以下に行い、政府と連携した民間プロジェクト「助けあいジャパン」が始まったのです。

ソーシャルメディア上の情報と、政府や自治体が抱えている情報を結びつけ、発信することで、被災者・被災地、そして支援を考えている人たちの助けになることを目指して日々活動しています。

「助けあいジャパン」は、政府からの受託ではない民間が、政府や自治体と連携し、ボランティアベースで情報を発信するというかつてない画期的なプロジェクトです。いわば「新しい公共」です。

東日本大震災復興対策本部（前 震災ボランティア連携室）と連携し、3月から現在は復興庁連携プロジェクトとして、毎日欠かさず更新してきました。200名以上のボランティアの協力のもと、被災地でのボランティアニーズの発信をメインに、広く「助けあい」の輪を広げる様々な活動を行ってきています。

サイト閲覧ユニークユーザー数190万超。510万PV超。
フェイスブック「いいね!」数15000超。
ツイッターフォロワー数9000超。
また、情報を提供しているヤフー閲覧数まで入れると数億超…。

震災関連サイトとしては驚異的な実績を上げてきています。

また、リアルでの「仙台駅ボランティア・ステーション」や「ボランティア・ツアー・キャンペーン」、フジテレビや河北新報との連携、新たな活動「情報レンジャー」など、情報支援を元にした「助けあい」全般に活動範囲を広げて行っています。

今後においても、被災フェーズの移り変わりにフレキシブルに対応すべく、現地災害雇用事業なども利用して現地との結びつきを深め、様々なニーズに対応し、息長く「本当に役に立つ支援」を実行していこうと考えています。



英語版
ケータイ版も提供

ボランティアツアー
の告知に力を入れている

今日のトピックス

助けあい情報を提供

- ・現地で活動したい
- ・義援金を送りたい
- ・物資を送りたい
- ・地元産産を応援したい
- ・被災者を受け入れたい
など

政府・省庁などからの
最新情報を集め、
わかりやすくリライト
して提供（史上初）
この情報はヤフーなど
にもRSS提供。

現地のプロガーなど
からの迫真レポート
を毎日提供

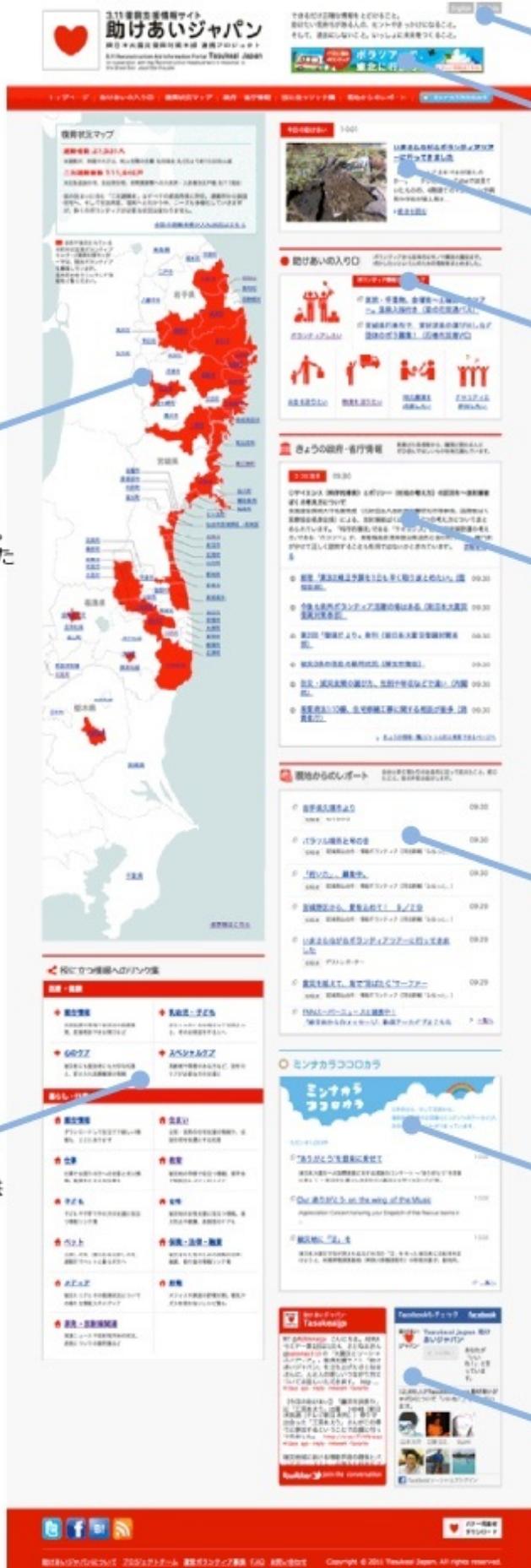
世界中の
支援コンテンツを
集めて提供

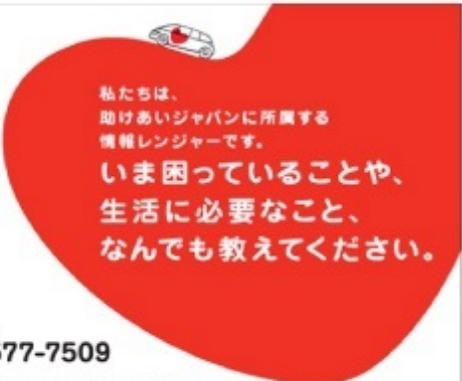
ツイッターや
フェイスブックでも
国内および世界へ
発信

復興状況マップ
各県市町村ごとに
復興状況や
ボランティアニーズ
などをまとめて提供。
使う人のことを考えた
総合まとめ情報

ネット上にある
有益な情報を探し、
リンク集として提供

自他共に認める
究極のリンク集。
次の災害にも
きっと役立つ。





TEL 080-3577-7509
E-Mail: tasukeai.ranger@gmail.com
http://tasukeaijapan.jp

私たちの集めたい情報は、手紙とまぐさ、ひき、こと、もの情報です。特にマスコミのニュースや雑誌記事からソーシャルネットワークに共有される情報には含まれないような、誰からも気づかれぬことなき情報も求めています。ニュースになるかどうかの観点では見逃されがちな情報をくみ上げて、その助けとなる方々に伝えていくことが大層だと考えます。今まで以上に助けあひたいかわからなかったことや、いまの生活に必要と感ずるもの、遠方に住んでの必要な生活のアイデアなど、ぜひお聞かせください。

助けあいジャパンとは、「情報は必ず有用と見なすイフロンであり、なるべし正しい情報・ニーズを、被災地と、被災地を支援したい人によりやく提供しなければいけない」という目的のもと、内閣府(復興庁)が「ボランティア」と連携して発足した一財団法人です。主にウェブサイトで様々な情報提供を行っています。募集にあるウェブサイトのイメージ写真をご確認ください。

レポーターを募集しています。
助けあいジャパンでは、サイト「助けあいレポート」のレポーターを募集の活動に力を入れています。募集もしてあります。募集の詳しい案内についてはお問い合わせください。募集の詳しい案内は、お電話でもお問い合わせいただけます。詳しくは、<http://support.tasukeaijapan.jp/blog/index.html>をご覧ください。

Supported by
3.11 復興支援プロジェクト



情報レンジャー

仮設住宅フェーズになって、より現地のニーズが見えにくくなってきました。

「助けあいジャパン」ではその事態を重く見て、現地に行って情報を取得してくるという新しい活動を始めました。

それが情報レンジャーです。トヨタと提携し、エスティマハイブリッドに乗って被災各市町村を回ります。そして現地のニーズや悩みを聞き、各方面につなげたり、情報発信したりしていきます。

これも息の長い活動になる予定です。

情報レンジャー@宮城 活動中!
「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」
(宮城県+東北学院大学+助けあいジャパン)

情報レンジャー@福島 9月よりスタート
福島県『ふるさとの絆電子回覧板』事業(緊急雇用)

岩手県での展開も計画!



- 情報は水や食料と同じ大切なライフラインである。
私たちは、サイト上での情報発信を中心に、民・官連携し、アイデア、行動力、そしてそれぞれの熱い想いをもって、東日本大震災で被災した人たちに「勇気」と「明日に向き合う気持ち」を送り続ける。
- 少ない時間でもみんなが持ち寄って協働すればそこに新しいアクションやムーブメントが必ず起こせる。
私たちは、ソーシャルメディアを中心に、支援したい人がタイムシェアして次々と参加できるまったく新しい「助けあいプラットフォーム」を創出し、みんなの「参加」のもと、この世の中をよりよい場所に作りかえていく。
- 日本は災害大国である。
いつ大災害があなたの住む場所に訪れないとも限らない。
私たちは、この活動で得られる知見や人脈、想いなどを結集し、必ず起こるであろう次の大災害のための「備え」と「ネットワーク」を作り上げ、啓蒙し、発信し続けていく。

「助けあいジャパン」では、皆さまからの寄付をお願いしております。

お寄せいただいた寄付は、「助けあいジャパン」が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

■助けあいジャパンと政府の「連携」について

よく誤解されますが、「助けあいジャパン」は政府からは一銭もいただいていません。政府と連携したプロジェクトですが、それは「政府と情報連携している」という意味です。受託事業ではありません。ですので、大震災のあの日からずっと全員のボランティアでサイト制作や支援活動をしています。

ご理解をいただき、皆さまから寄付のご協力をお願いできればと思っております。寄付していただいたお金は、透明性をもって管理をし、サイト上で財務報告として定期的に公開いたします。

必ず「生きたお金」として活用させていただきますので、よろしくお願いいたします。

■お振込み口座番号

りそな銀行 麻布支店 普通1698089
口座名：公益社団法人 助けあいジャパン

公益社団法人 助けあいジャパン
〒106-0045
東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 8F
ドリームデザイン内
080-3695-3872
Web:tasukeaijapan.jp
Facebook:TasukeaiJapan
Twwiter:Tasukeaijp

旅トキドキ・・・。

鈴木もとの気まぐれエッセイ



鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84 (100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

マジで死ぬかと思った話（前編）

宿の受付で宿泊代を払っていると……、

受付横の、黒い革張りのソファに、どっぷりと腰を下ろした初老の白人の男性と目が合った。

男の手には、瓶ビールが握られている。一人でチピチピと、ビールを飲んでいるのだろうか。

俺がハローと挨拶すると、初老の、その男性は、特に表情を変えず、持っていた瓶のビールを、口に運び、グビグビと音を立てて飲んだ。

酔っ払っているのだろうか？

ビールを美味しそうに飲み干し、
口についた泡を、シャツの袖で乱暴にふくと……

男性は、俺に向かって、「ヘイ……！」と言った。声がガラガラだった。
俺に、何か聞きたい事でもあるのだろうか？

俺が「何??」と聞き返すと……

黒いソファーに身体を埋めていた男性は、
身体を起こし、前かがみとなり、飲み終わった瓶を床に乱暴に置いた。

そして前かがみの姿勢のまま、
男性はこう言った。

「その道は……、ベリーデンジャーだから、絶対に行くな……」

男性は、そう言うと、意味深にニヤリと笑い、片方の口角をいやらしく上げた。
青い目が充血していた。

へ……？ 何だいきなり？

それに道……？ デンジャー？

宿の前の道の事か……？

この宿の前の、石畳のゆるい下り道を下って行くと
危険なのか？

そこから先はとても危険なのか？

男に詳しく聞こうと思い、俺が口を開こうとした瞬間、
「ベリーーデンジャーだから、絶対に行くな……」と

初老の男性は、もう一度その台詞を吐くと、
席を立ち、フラフラと宿の階段を上って行ってしまった。

何がデンジャーなのか？

宿の前の道を、奥に進むと、何でデンジャーなのか？ その先には何がある
のか？
俺の頭の中は、はてなで埋め尽くされた。

俺は……、1年かけてアジアを放浪し、



ヨーロッパのギリシャのアテネに来ていた。

インドやネパールに居た時と比べ、
物価が一気に6倍となり、ペットボトルの水を買うだけで、
あまりの高さにめまいがして、倒れそうになっていた。

だが、ギリシャというだけあってか……

綺麗な建築物が並び、人々の服装がファッショナブルになり、
街は、お洒落なカフェや、アパレルショップで埋め尽くされていた。

ギリシャのアテネは、俺にとって物価が高すぎたので……、

安い宿を探し歩き、オモニア広場に行き、
表通りから10メートル程入った、
薄汚れた宿を、今日の寝床としていた。

きっと……

今思えば……

この時の俺は、日本と大して変わらない、ギリシャのアテネという都会の環

受付横の壁にかかっていた時計に目をやると、夜の11時だった。

すぐ近くの大通りには、人が歩いているものの、宿から裏路地へとまっすぐ続く、ゆるい下り坂の先は、薄暗く、遠くまで見渡せそうにない。

そして、宿の前の裏路地は、誰も一人として歩いていなかった。

「そこの道は、ペリーデンジャーだから絶対に行くな！」
さっきの初老の男性の言葉が脳裏をよぎる。

この道の先には、何があるのだろうか？ 気になる……。

受付近くの椅子に座って化粧をしていた、
タイから観光で来ていると言っている、オカマちゃんに、

この辺りは危険なのか？ と聞くと、
くねくねと身体をよじりながら、笑顔で「I dont know～！！」と言われた。

声がやはり低かった。

よし……………

行ってみようか？ 少しだけ行ってみようか？ 様子を見に散歩してみようか？
危険だと感じたら戻ればいい。

俺は本格的に陸上をやっていたし、
追いかけてこなら多分、負けない。多分。

俺の薄汚れたズボンのポケットには、貰い物のデジカメが1つと、
10ユーロ入ってるだけだ。

もし何かあっても、貰い物のデジカメと10ユーロなら、諦めがつく。

俺は……好奇心に勝てなかった。

俺は、何かあったらすぐに走り出せるように、
ネパールで買った偽物のコンバースの靴紐を、きつくきつく締め直すと、
木製の扉を開け、宿の外に出た。

外はひんやりと冷たかった。そして、深呼吸を1つする。

ハアーと吐き出された息は、寒さの為、白い煙に変わった。

フリースのチャックを首元まで目一杯あげ、
薄暗い石畳の道を、ゆっくりと下り始めた。

大通りを走っていた車の音が、少しずつ遠ざかり、静寂があたりを覆う。

俺の足音だけが、コツ……コツ……と
誰も居ない路地裏に不気味に、寂しく反響する。

細い路地に、背の高い古びた建物が並び、
夜空があまり見えない分、妙な圧迫感があった。

そして……、

危険と言われたからなのか、俺が夜道にビクビクしているだけなのか……
10メートル進むごと、あたりの気温が1度ずつ下がってる気がした。

150メートル程、石畳の細い道を下っただろうか？
最初の十字路が現れた。

どちらかに曲がるか？ 左に曲がるか？ いや……、
とりあえず、もう少し真っ直ぐ歩いてみよう。

だが……
その十字路に差し掛かった時、
俺は足を止めてしまった。

「おお……、これは……」

誰もいなかった、アテネの裏路地の道には、
沢山の、肌の色の黒い女が居た。

40人程の黒人の女が、
5メートル置きに、1人ずつ、均等の距離で立っていた。

よく見ると、皆、肌を出し、ミニスカートを履き、ガッツリと化粧をしている。

何も無い、寂しい殺風景な路地裏に、
ただ立っているだけの黒人の女性達。

旅に出て、黒人の女性を目にすることはあったけど、
これほど多くの黒人女性を、いっぺんに目にするのは、初めてだった。

よく見ると、皆、骨格がしっかりしていて、
腕も足も、すべてが男の俺よりも、太く筋肉質だ。

身長172センチの俺よりも
皆、背も高く、肉厚的で、見ていて迫力がある。

陸上のオリンピックをテレビで見ている時、
決勝まで駒をすすめていたのは、大抵黒人だったが……、

こうして、黒人女性達の、たくましい筋肉を見ていると、
黒人の身体能力がずば抜けているのも、何だか納得が出来た。

しかし……、何だ、ここは……？
ギリシャのアテネなのに、何でこんなに黒人がたむろしてんだ？

外灯が、ポツンポツンと、力なく青白い光を発しているだけの
この場所で、彼女達は一体何をしてるんだ？

この殺風景な、さみしい場所で、
彼女達は誰かを待っているのだろうか？

俺は……
その不思議な光景にとらわれて、その場に立ち尽くしてしまった。

すると1台の車が、黒人の彼女達の前で止まった。
車の運転席の窓が、ウーンとゆっくりと開き、
白人の太った男が顔を出した。

黒人の女に話しかける、白人の太った男。

すると……

話しかけられた黒人女性は、驚く程、フレンドリーに
愛想よく受け答えをした。

一言、二言会話をすると、
白人の太った男性は、5メートル車を移動させ、
次の女性と会話をする。

一体、白人の男性は、
黒人女性と何を話しているのか？
何をしたいのか？

車ごと5メートル移動しては、
窓越しに黒人女性と10秒ほど会話し、

また5メートル移動しては、次の黒人女性と会話する
太った白人男性。

白人男性は……、
女を品定めしている様だった。

白人男性は、10人程の黒人女性と会話すると……
1人の黒人女性を車に乗せた。そして
車のドアが閉まったと同時に、すごいスピードで走り去って行ってしまっ
た。

なるほど……。　ここはそういう所か……？

きつとここは、自分を売る場所なんだ。黒人女性達は、自分を売っているん
だ。

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅



奇跡の玉葱のあと僕たちを支えてくれたもの

(功甫:功、儀高:儀)

功:今日も風呂なしか。

儀:風呂なした。

功:何日目だっけ？

儀:10日。

功:まさにサバイバル！

儀:……風呂はいらないのがサバイバルなのか？！笑

功:風呂に入りたくても入れない、そんな何も無いところを走っていた訳ですよ。

儀:それも実に2週間もの間！

功:500kmだからね、よく走ったそんなところを。

儀:道は未舗装。見渡す限りの荒れた大地。地平線。

功:町も村もない。人もいない。もちろん水も電気もない。

儀:宿泊地はもちろん、広大な大地のど真ん中。

功:空気がとても乾燥していたから、2週間くらいお風呂に入らなくても全く問題なし！

儀:いや、問題あるだろ！ 絶対おれたち臭かったし。笑
功:ヒゲもボウボウだったしね。この旅一番浮浪者に近づいた期間でした。
儀:2週間ぶりに浴びたシャワーの気持ちよさといったら！！
功:3回シャンプーしなきゃ皮脂と土埃が落ちなかったよね。笑
儀:そんなサバイバルな環境で、2週間無事にチャリを走らせられたのはなぜか。
功:僕たちは自転車。さすがに2週間分の食料、水は積載できません。
儀:前回のシリーズで一度死にかけたことはご存知かと思います。
功:その時は奇跡的にタマネギとゲルのおばちゃんに助けられて一命を取り留めましたが。毎回そんな奇跡に頼るのは無謀。
儀:おおよそ水は一日一人4リットル必要。
功:自転車にはフル積載でも水10リットル。

儀:どう考えても一息では走りきれません。
功:ではどうしていたのか。実は、この道には約100kmおきに小さな商店が点在しているんです。
儀:その名も「チャイハナ」
功:商店というか、見た目、廃墟だったけどね。人いるのか？！って感じ。笑
儀:でも中をのぞいてみるとちゃんと人が暮らしていて、食材が売っている。
功:パスタとか、ジュースとか、水が埃まみれになって売っている。
儀:いったいいつからあるんだこれ?!という様子です。
功:僕らが走っていたのは、一応、首都へと繋がる国道。超長距離トラックは皆この道路を走ります。
儀:そんなトラックのドライバーの為の補給&休憩所がチャイハナ。
功:中には、絨毯が敷かれ、机があり、運がいいと、その辺で飼われている羊の肉が食べられます。笑
儀:さらに交渉次第では中の絨毯の上で寝かせてもらえます！
功:でももちろん、電気水道はなし！ランプの明かりで夕食です。
儀:逆にちょっとロマンチック！ ま、こーすけと二人じゃ……ね。笑



功:そんなチャイハナで僕たちが必ず購入していたのは、もちろん、水、 Pasta、そしてガソリン。

儀:そうだね、やっぱり自転車もガソリンがないと動かないからね。

功:そ、自転車は燃費がいいからリッター50km♪っておい!

儀:もちろんそんな訳ではありません。笑

功:ガソリンは、調理で使うバーナーの燃料です。

儀:絶対、中央アジアではガスバーナーのガスは手に入らないと思っていたので、今回の旅ではMSRのガソリンストーブをチョイス。

功:これが大正解! ガソリンならば、たとえ物資の乏しい砂漠のど真ん中でも、車が走っていれば必ず手に入る。

儀:最悪トラックの運ちゃんに分けてもらえばいいしね。安心♪

功:おかげで毎日あったかいてきたてPastaを食べることができました。

儀:そしてもう一つ。一番大切な水。

功:お金のない僕たちには毎日沢山の水を買うお金がありませんでした……。

儀:なので! チャイハナで彼らの生活用水である雨水をタダで分けてもらい、生き延びていました。

功:とはいえ、雨水。相当きたないっす。茶色く濁っていて、虫も泳いでいる。

儀:そのまま飲めば確実にノックアウト。

功:そこで活躍したのがMSRの浄水器。

儀:これを使うとあっという間に濁った水が、透き通ったおいしい水に!!

功:ガソリンストーブと共に、毎日ヘビーユーズでした。





儀:何も無い砂漠での宿泊は、毎日テント。

功:日が落ちる少し前に寝床を決め、飯を作り、日暮れと共に眠る生活。

儀:運良く近くにチャイハナがあると、そこをお願いして敷地内で寝させてもらいます。

功:中央アジア独特の、ご飯を食べるときに使う台の上に寝かせていただけるともありません！

儀:ちょうど二人用のテントがすっぽり収まるサイズで、僕らには絶好のキャンピングスペースでした！

功:下が平らだと寝心地がいいからね。





儀:しかし、そんな中央アジアの荒野には、恐ろしい天敵が。

功:通称飛ぶトコジラミ。やつらは、日暮れと共に姿を現し、群れをなして体中を刺してきます。

儀:体長は蚊の半分くらい、薄い緑色の羽のついた得体の知れない虫。

功:さされる瞬間は痛い。そしてその後は恐ろしい痒み。

儀:1週間は腫れが引かず痒さが続きます。

功:本物のトコジラミにも刺されましたが、飛ぶトコジラミがこの旅で一番恐ろしい敵でした。

儀:みなさん、中央アジアの荒野で野宿する際は十分ご注意ください。笑

Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>



田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。



加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理…

加藤功甫 田澤儀高 共著

ユーラシア大陸横断自転車旅 2万キロの旅

20,000km Bicycle Trip Across The Eurasian Continent

加藤功甫 / 田澤儀高 共著

サバイバルな自転車の旅は
奇跡の連続!!

11月
31日
20,194km
の旅!

ホルトガルから日本へ
トライアスロンを楽しむ
大学院生2人が繰り広げる

十一月、31カ国、20000
kmのユーラシア大陸横断の旅
は奇跡の連続。
その中で実施してきた世界の
子どもを繋げるプロジェクト。
1本の糸で世界の子どもを繋
いだ結果は…



小説Braviに連載中の彼らが成し遂げた長い道のり。ぜひご覧ください。

最も楽に安く アンナプルナBC に行く方法

アンナプルナとは、ネパールのヒマラヤ山脈の中央に鎮座する山群の総称。最高峰は標高8,091m。アンナプルナBC（ベースキャンプ）は標高4,130m。

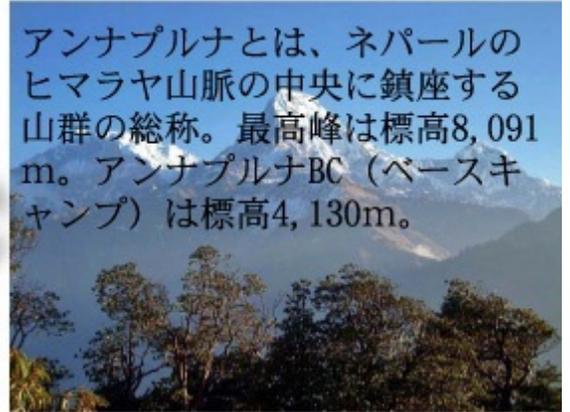


Photo:Pinterest

地獄と天国編 inポカラ

2012年9月27日から10月2日の6日間で、ナヤプールからアンナプルナBC（ABC）までトレッキングをしてきました。

地球の歩き方には9日間と書かれていますが、6、7日で十分に行って帰ってこれると思えました。僕達を通った、ナヤプール、ニューブリッジ経由アンナプルナBCのルートが恐らく最短距離だと思います。道も整備されていて、分かりやすく特に迷うこともなく歩けました。

1日目 待ちに待ったアンナプルナトレッキング開始！

ポカラレイクサイド AM5:30 → ポカラローカルバスターミナル
5:50 TAXI 250RS

ポカラの街中からTAXIで行くと意外と近いがどんなに粘っても250Rからは一切負けてくれない。

負けてもらえた方いたら連絡下さい。

ポカラローカルバスターミナル 6:00 → ナヤプール 8:00 バス代1人100RS

ナヤプール行きのバスは5時半頃から夕方17時辺りまで15分おきにでている。バスの運転手、料金係りに『ナヤプール』と伝えておけばついたら教えてくれる。ローカルバスなので途中、度々止まるので大体2~4時間位はかかると思ってた方がいい。その上、道が結構揺れるのであまり眠れない。だがTAXIだと2000~2500RS位なので、節約旅行の場合は必然的にバスしかない。当然座席は狭いし、予約なんてものもない。

ナヤプール 8:10 → ビレダンティ 8:50 休憩 30分



ローカルバス

バスを降りてからビレダンティに行くには家と家の間の道を降りていく。売店、食堂が一杯ある。降りる場所によっては少々分かりにくいので売店の人などに聞いた方がいいと思う。僕達が行った時期はシーズン初めだったので、まだ観光客（トレッカー）が少なくてわかりにくかった。ハイシーズンは10月初旬からは一気に増えるので分かりやすい。

ビレダンティ休憩

余裕をかまして、こゝらで優雅に朝食。すでに料金は山価格。何を買っても食べても高い。



チェックポイントでなぜか、顔に赤いのを付けられた…

ビレダンティにはチェックポイントが二つある。

最初にTIMSの受付があり、そこから少し歩いて、橋を渡った先にアンナプルナ許可証のチェックポイントがある。



※TIMSチェックポイント、アンナプルナ許可証チェックポイント、共に入下山時に必ず受付をしなければならないので注意。※許可証がなければ4000RSの罰金だそうです。

ビレダンディ 9:20 → シウイバザール 10:20

(2012年10月10日現在、100RS=93円)

ビレダンディからシウイバザールまでの道、登山というよりか村の中を歩いている感じでかなり歩きやすいが車がちょこちょこ通るのでトレッキング気分は冷める。

シウイバザール 10:20 → クリウ 11:20



シウイバザールからは徐々に登りが始まるがまだまだ歩きやすい道。写真(上)はクリウの分かれ道、階段を登ればガンドルンという町に行くルートで、階段を登らずにそのまま道なりにまっすぐ進むとニューブリッジに行くルート。ガンドルンは眺望や町並みがきれいと言ったが、ニューブリッジルートの方が楽で早いと聞いていたので、ダメ人間かな?笑 今回はこちらのルートを通った。

クリウ 11:20 → シワイ 12:20 休憩20分

クリウからシワイは登りが少々きつくなってくる。周りに木などの日陰が少ないので日中は暑い。

シワイが車が入れる最終地点。ジープのタクシーの溜まり場で、ローカルバスもここまで入ってこれる。※帰りはここまで来れば、ポカラツーリストバスターミナル行きのバスが出ているが、値段を吹っかけてくるドライバーなどもあるので乗る前に要交渉。言い値から何割かは安くなる事が多い。逆のポカラからここ、シワイまで来るバスがあるかは未確認。

シワイ 12:40 → キュミ 14:00 休憩10分

シワイからはやっと普通の登山道になって気持ちいい。地元のボーダー（歩荷）も見かけ始める。多少アップダウンで距離もわりと長いのでゆっくり歩いた。道は整備されているので歩きやすい。たまに民家の間を通ることもある。特に危険なところはなかった。

キュミ 14:10 → ニューブリッジ 16:00 休憩15分

この辺りからアップダウンが多くなり、標高は低いがしんどくなる。ニューブリッジからはジヌーというこのルートで一番大きな村が山の上に見える。あそこに温泉がある！！って気合を入れなおした。

ニューブリッジ 16:15 → ジヌー 17:20

ニューブリッジからジヌーへの道は一度登り、その後、谷の橋まで一気に下った後は、ずっと登りが続く、朝早かったのと歩き続けた疲労で足が重く、なかなか進まなかったが、『ジヌーに行けば温泉に入れる。温泉だー！！』という気持ちだけで歩いた。相方のharuにも言葉の鞭を打って歩かした。今回のルートで2番目にきつい登り。マジできついです。翌日は筋肉痛間違いなし。しんどすぎて登っている写真が一枚もありません。すいません。

ジヌー到着

小鹿ちゃんのように足がプルプルしながらもジヌーに到着。疲れ切った体にさらに鞭を打って温泉がある谷底に向かう。徒歩約20分。え？ホントに温泉あるの？騙されてるんじゃないかね？ってくらい下ります。（鋼の心を持って下ってください）

※チョムロンに行くルートと温泉に行くルートは全く違うので注意
荷物がなくても歩くのはつらかったが、今、温泉に入らなかったら、今日一日
を無駄にするような気分になったのでがんばった。途中、白い袋がぶら下がっ
ているのが唯一の目印。

※夕方付近に行く場合はライトが必須

ジヌー温泉は思っていたよりか、お湯も設備もキレイ、温度もまあまあ温か
い。相当疲れていたのでかなり気持ちいい！誰もいなかったので素っ裸で入っ
た。やっぱり温泉は裸が一番でしょう。



注意※ 本当は水着着用です。

一日のお金

ビレダンディレストラン

フライドライス	180
ブラックティー 30 × 2	60
スニッカーズ	100
スプライト(シワイ)	150
スプライト(ニューブリッジ)	175
ジヌー宿ドミトリー1人100 × 2	200
フライドヌードル	250
ヌードルスープ	150
水 1リットル60 × 3リットル	180
合計	1445 RS
日本円	1355 円

※アンナプルナ山域の宿では宿泊した宿で必ず食事(晩飯)をとらないといけ
ないルール(暗黙?)があるみたいだ。料金は山が高くなるにつれて上がって
いく。

一日目の感想

僕達はどうしても温泉に入りたいということで1日目に無理をしてジヌーまでいきました。

ビレダンディとシワイで多く休憩したのがあまりよくなかった。距離にして大体10キロあるかないかですが、ナヤプールから始めた場合は無理をせずに、目的地はニューブリッジにしておいて、可能であればジヌーまで登るといった方がいいと思った。

2日目 地獄の登りは続く

ジヌー AM 9:00 → チョムロン（入口） 10:30 休憩30分

前日の疲れからか7時半ごろ起床、それでも宿にはまだまだ人がいる。日本での登山では朝4, 5時から歩き出すのが当たり前だが、ネパールの山は時がゆっくり流れ、せかせか歩く人の方が少ない。そして僕達ものんびり朝食も食べて優雅に9時ごろ出発（この余裕が後に響く）

ジヌーからチョムロンは1時間半ほどずっと登りで、このアンナプルナBCルート一番の山場、地獄の登り後半戦です。その為朝から二人とも憂鬱です。もし昨日ニューブリッジに泊まると、二つの山場を越えないといけないので、がんばれるならジヌーまで来た方が後々楽です。肝心の登りは足場は階段のようになって良く歩きやすいが、日中は暑いのでバテる。出来ることなら朝の涼しいうちに登った方がいいと後悔した。

チョムロン（入口） 11:00 → チョムロン（中央） 11:15
休憩 45分

やっとのことでチョムロンに到着。チョムロンはアンナプルナBCルートの中で一番大きい村で入口から出口まではゆっくり歩くと30分位はかかるので、僕が勝手にチョムロンを3つに区分けした。

ジヌーから登ってきて、一番最初にゲストハウスがある所をチョムロン（入口）として、そこから10分位登って、パン屋やゲストハウスが密集している所を（中央）として、そこからさらに石階段を下り、道沿いに安い売店がある所を（出口）とした。チョムロンは売店、レストラン、ゲストハウスの数も一番多い。パン屋やインターネット、両替もできるゲストハウスがあるので、必要なことはここで済ませるのが無難。ただ、全体的に物価は高い。僕達はここのパン屋で昼食をとった。

パンが100RS!デカイ!安い!!けど、美味しくない!それでもパンには惹かれる。

チョムロン 12:00 (中央) → チョムロン (出口) 12:15
休憩15分

チョムロン中央から石階段をのんびり10分ほど下ると、チョムロン出口のこの売店はなぜか全ての物が異様に安い。これから先はもっと高くなるって売店おっちゃんがしきりにアピールしてきた。

確かに安い、ここで買い込みしておくとお節約できる。デカイクッキーは不思議な味がするのでやめといた方がいいです。無難にスニッカーズが一番だと思う。なぜかアサヒスーパードライもあってテンションがあがった!

チョムロン (出口) 12:30 → 下シヌワ 13:55

道のど真ん中に牛なんかもいたりする。

チョムロン (出口) からはもっと下り谷の橋を渡ると登りが始まる。ジワジワと緩急の効いた登り坂は昨日の疲れが残っていた僕達にはきつかった。休憩ばかりして思うように足が進まなかった。

下シヌワ 13:55 → 上シヌワ 14:50 休憩25分

下シヌワから上シヌワは普通に歩くと大体1時間くらいの登りで結構きつい。登りきるとチョムロンと同じ位の標高になる。この時間位から天気が怪しくなり、雨が降り始めたので様子を見る為に休憩を長めにとった。

上シヌワ 15:15 → バンブー 16:45 バンブー泊

様子を見ていてもあまり天気が回復しそうな気配が無かったので、少し弱まった所で歩き始める事にした。明日以降の行程を考えるとバンブーまではいかないと予定が立たなくなるので歩く事にした。上シヌワからバンブーは多少のアップダウンを繰り返しながら徐々に下り、最後の一気に石階段で下り、平坦な道を少し歩けばバンブーに着く。ネットで同じルートを通った人のブログでは、上シヌワからバンブー50分と書いていたが、とてもじゃないけど普通に歩いたらそんな時間では着かない、地元の人に聞いても2時間のルートと言われた。

Experience

バンブー宿代	200	オムレツ	70	クッキー	90
ダルパート	390	パンケーキ	140	コーラ	80
フライドライス	255	クッキー 50×3	150	スーパードライ	250
レモンティー	60	スプライト	190	スニッカーズ80×3	240
ホットミルク	70	パン	100	ポテトチップス	60
ポイル水 2l	200	ホットミルク	60	ドライフルーツ	100
合計	2805ルピー		約2620円		

二日目の感想

バンブーに宿は3つくらいある。その内の宿の一つはなぜか、色々と割引してくれた。

宿代を1日に200RSにしてくれて、なおかつホットシャワーも無料にしてくれた。

本当はこの日にドヴァンかヒマラヤまで行きたかったのだが最初、のんびりし過ぎたのでバンブーまでしかいけなかった。二日目にどちらかにいけると、翌日ABCまで行くのがより容易になる。



■Writer&Photographer

G o G o 市原

■Profile

三度の飯よりビールとカツオの刺身が好きな高知人。

高校卒業～自衛隊～NZワーホリを経て、登山と写真に目覚め、世界一周を決意。大阪を拠点に働いていたが、出稼ぎ先の長野 槍ヶ岳で最愛のパートナーが見つかり2012年6月から二人でケチケチな節約世界一周の旅に出発した。

<http://ameblo.jp/gogoichihara/entrylist.html>

自炊派の手料理

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安く美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

★ コーラと白ワインで簡単肉じゃが（四人分）

旅中は時折、日本食が無性に食べたくなるもの。
そんな時フライパンで簡単に肉じゃがを作ってみよう。

材料(四人分)

- ・じゃがいも 3個(約500g)
- ・人参 半分
- ・玉ねぎ 1個
- ・肉(豚肉or牛肉) 100g
- ・水 400ml

調味料

- ・醤油 大さじ2杯
- ・白ワイン 大さじ3杯
- ・コンソメ 1個
- ・コーラ 大さじ3杯



作り方

- ①じゃがいも、人参、玉ねぎは皮を剥き一口大に切る。肉を3cmくらいに切る。
- ②フライパンに水と調味料を全て入れ、切った野菜と肉も一緒に入れてから火を付けます。
- ③最初は強火で煮立たせてから、中火にして15分くらい火をいれ、水分が半分くらいに煮詰まったら火を止めます。
- ④ここで完成ですが、時間があれば一度完全に冷ましてからまた温めると、より一層味が食材に染み込んで美味しくなりますよ。



記事提供

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010>



連載エッセイ たびあるき たべあるき

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ
現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中
ヘタクソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な
存在になれたらなーと思ってます
人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

カナダ・カルガリー

冬場の気温は氷点下マイナス30度
まで下がる厳しい寒さのカルガリー。

そんなカルガリーでは朝、暖かいベ
ッドから出るのは困難だ。一分、一秒
でも長く寝たい……が。

「ブルース！ 起きろ！ 飯だ！！」

ショーンの有無を言わせぬ大声で叩
き起こされ、寝ぼけ眼でダイニングに
向かう。

今日の朝飯もワイルドに切り分けら
れたミディアム・レアの「肉塊」。そ
れに少量のトースト。

ショーンは既に口の廻りと髭を脂ま
みれにさせながら肉塊を噛みちぎり、
引きちぎりながら「喰らって」いる。
その様はまるで原始人だ。

僕とショーンはカルガリーの空手道
場で出会った。僕は、カルガリーの高
い物価の中ではホテルに泊まる事は困
難で、道場に寝袋持参で泊まるつも
りでいた。

そんな僕を気の毒に思ったのか、
「俺の家に泊まれ」
と言ってくれたのがショーンだっ
た。

それでショーンの家(といってもトレ
ーラーハウスだが)に泊めてもらう事
になったのだが……。



朝から晩まで肉肉肉肉……肉づくし！
「牛や羊は草を食う、その肉を食うんだから、俺たちは野菜なんて食う必要はない！」
が口癖だった。

だが不思議と豚肉だけは食卓には上がらなかった。でもこれはショーンな宗教観でなく、ただの好き嫌いだと思う(彼は世の中全ての宗教を毛嫌いしていたし)。

朝昼晩と牛肉か羊肉のみ。だいたい朝昼は牛で、夜は羊が多かった。その理由をショーンに聞くと
「羊肉はヘルシーだからな！」
だそうだ……。

1日三食肉のみでヘルシーもくそもないと思うが、それがショーンのポリシーのようだ。

そんな楽しい(?) 日々も終わりを告げる日が来た。僕がピザの関係で、カナダを離れなければならなくなったからだ。

そして別れの日。

ショーンとの別れは悲しいが、不謹慎ながら僕は一刻も早く野菜と魚を食べたくて食べたくて仕方がなかった。

たっぷり色とりどりでフレッシュな野菜が山盛りの野菜サラダに、キリリとしたサーモンの刺身……。刺身にはワサビをチョイッとつけて……そしたら鼻がツーンとね！ むっふっふ！

僕の頭の中はそれでいっぱいだった。

が……、
「ブルース！ これを持って行け！」
と、ショーンから饞別に渡されたのは、アルミフォイルに包まれた推定3キロはあろうかという、こんがり焼けた肉塊。

……涙を流しながら食った。

悔し涙か嬉し涙か悲しい涙か……今となっては判らない。

【旅日記】ウツカリ到着インド《インド・バラナシ編》

■Writer & Photographer

Chibirock

■Age

33歳

■Profile

Sigur RosとBeirut鼎員のメタル好きバックパッカー。
チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を
選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

創刊号の
アジア特集
からの
スピニアウト
連載

いやもちろん、もともとの最終目的地はインドでしたよ。インドでしたけどね。

こんなに早く着いちゃうつもりもなかったから、いまだに驚いていますよ。

再会した友達とも再度別れて一人になったちびろっくは、どうもパツとしないポカラから、仏陀生誕の地、ルンビニというネパール端っこの街に立ちました。

しかしながらよくよく考えたらビザがギリギリじゃん。

ということで、ルンビニはスルーして、もうインド行っちゃえと、国境の街までさっくり移動。

リキシャの運転手に、相場40ルピーのところ250とか言われて、すごいぶんぶんして、80まで下げて、乗って、仲直りして、インドの金はあるかと聞かれて、無いと言ったら、提携してる両替所に連れて行かれた。

でっかい荷物も持って降りようとしたら、

「ここはネパールだから置いておいて大丈夫」

と言うので、信じて両替所へ。

なんかものすごくレートが悪いような気がしたので、

「インド入ってから両替する」

と断ったら、

「ここはネパールだから、ここですていった方がいい」

と。さっきは信じたけど今回はやめてみようという自分の直感を信じて、インドまで保留することにした。

リキシャでゲートまで送ってもらい、手続きをすませて歩いてインドに入った瞬間、「ああ入っちゃった……」と、後悔ともなんとも言えない感情に襲われる。

馬鹿か！ と突っ込みたくなるほどの人ごみをかいくぐって、なんとなく話しかけた超強気なイギリスおばちゃんのおかげで、一人500ルピー（他の人はもっと）でバラナシまで行く車に潜り込んで、しかしよりによって集まったのがでかい欧米人ばかり総勢8人で、ギュウギュウに車につめこまれて聖なる地へ向かう、という流れになったのはいいが。

500ルピーも何も、インドの金は一銭もない。で、あわてて両替することになったが、両替所が案外見当たらず、探す時間もなく、結局陰謀並の最悪なレートで両替するハメになった。

教訓：ネパール人を信じろ

もともと5時間で到着する予定が、もちろんそんな訳もなく、到着したのは10時間後の午前1時。

まあ、想定の範囲内です。でも全員ヘトヘト。

右も左もわからないので、皆でイギリスおばちゃんのブッキングしてたBABA Guesthouseに便乗してみることに。

薄暗くてしめっぽい、迷路みたいな路地をぞろぞろ歩きながら、ああこれが一人じゃなくてほんとに良かった

と、なんとなくこういう流れになったことに感謝。

ギュウギュウ中ずっと隣にいた、比較的テンションが低くて居心地の良い、熊のようなジュリアンと部屋をシェアすることに。

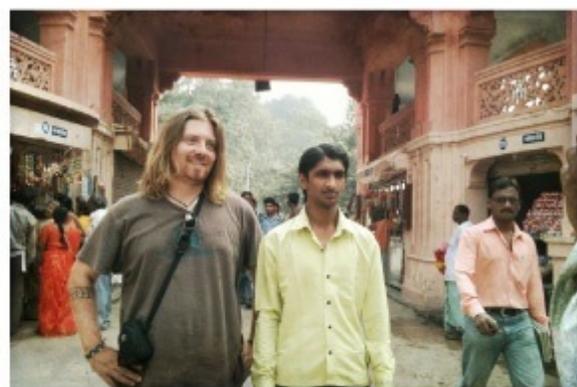
翌朝起きてみると日本人だらけじゃないですか！ って、思いっきり歩き方に載ってる宿だった。

おかげさまで、今日また友達に会うことができました。

さてインド。

卒業旅行の大学生あたりが言いがちな、人生観変わる、とかそんなことはありません、そもそも人生観なんて仰々しいものもってないし。

ただ、些細なことが気にならなくなりすぎてきた気がします。



全く見知らぬインド人に、一緒に写真撮ってとせがまれようと、乗ったタクシーがガンガン走ってる中逆走しようと、道端にでっかい何かの内臓がたびたび落ちてようと、ガキに「何で日本人みんなそんなチビよ（日本語）」

と馬鹿にされようと、ガキにあいふおん取り上げられ、バッテリーなくなるまで無駄な写真を撮りまくられようと、1分に1回の高頻度でありとあらゆる店につれてかれそうになっても、まあ、生きてればこんなこともあるよね、で片付けられるようになってきた



のは、間違いなくインドのせい。

そして潔癖大国日本の中でも潔癖症と言われるような人は、飛行機着陸と同時に即死するような汚さ。

でも、これだけの数の人間にもみくちゃにされると、ありとあらゆる汚い物の集合体を目の当たりにしても、やっぱり、まあこうもなるよね、で、納得。

義務付けられてるかのように、1日最低1リットルのコーラを摂取するジュリアンと三日三晩一緒にいたからか、インドに入って三日三晩、インド料理というものを全く食べていないことに気づく。

インドにはカレーしかないというのは嘘です。

【旅日記】インドの当たり前《インド・バラナシ編》

取っ手のあるカップがない訳ではない。しかし熱いチャイも熱いコーヒーもだいたいグラスに入って出てくる。



どう見てもアイスな飲み物である。

その直前に注文した2つのパンが2つとも注文したのと違うのが来たから、また間違ってる3段オチか！と面食らったのもつかの間、これは注文した通りのホットカフェラテだった。

熱くて飲めない前に持てない。

大半の日本人が持つであろう疑問を誰にともなくつぶやく。

なぜ取っ手のあるカップに入れない。

きっと、重ねらんないから、とか、取っ手ついてるのは高いから、とか、洗うのめんどくさいから、とか、彼らなりの理由があるのかもしれないし、別になんもないのかもしれない。

いずれにせよ、インドではこれが当たり前なのであろう。

世の中には国単位、地域単位、個人単位、無数の当たり前がある。

例えば、日本では数分遅延したら謝罪が当たり前。インドは数時間遅延が当たり前。

日本ではきちんと列に並ぶのが当たり前。インドでは我先にと突っ込むのが当たり前。

どっちの当たり前が良い悪いではなく、いろんな当たり前にびっくりしたり感心したり愕然としたり、そういうの楽しんでいきたい。

いや、つかそうなってくると、「当たり前」って言葉自体が無意味な気がしてきた。

何だ「当たり前」って。文化？



とか、どうでもいいこと考えてたら、今日も日が暮れた。

【旅日記】小学生と猿の共存の道《インド・バラナシ編》

3歩歩けばウンコにあたるというのは決して誇張ではないここバラナシは、ヒンズー教徒にとっては聖地だそうだ。

だからインド津々浦々からのヒンズー教徒はここに集結するわけで、同時に世界津々浦々から旅行者も集まってくるわけで。

旅行者同士、なんとなく挨拶からはじまり、一緒にいても苦痛にはならなそうだと分かった場合は、なんとなくご飯食べに行ったり、なんとなく宿の屋上でゴロゴロしたり、なんとなく暇な時間を共有するようになる。

歳、出身どころかしばしば名前すら知らないまま、偶然交差したひとときをいっしょに過ごして、またそれぞれの目的地へ向かう。

これからも出会い別れは腐るほどあるし、また会いたい人とはまた会えるだろという根拠ない安心感があるので、別れの時は案外サラッとしたもんである。
(とか言いながら後からふとしんみりしたりする)



凧。
バラナシの空にクルクル舞う黒い点は、大体凧。
ひとりが買って来た凧をみんなで揚げた。
シラフで知らない人と凧揚げしてキャッキヤできちゃうなんて、小学生並にPUREではないか。新感覚！
なんてワクワクしてたら、凧、あっという間に猿に食われた。
「凧離せえ～」
という懇願の声がむなしく響く。



早朝、お店のシャッター開ける音みたいな爆音たててドミトリーのトタン屋根の上を走り回る猿。

おかげでドミトリーの人は無駄に早起きな人が多い。

人類とその他生き物の共存。
長年講じられているにも関わらず、いまだ確固たる解決策が見出されない、非常に困難な課題である。

あれ何の話だっけ？
ま、いっか。

バッチいバラナシを出ることにした日、最後に行きたい場所があった。歩き方の地図にひっそりしかし燦然と輝く文字、「バーガーキング」！

同じタイミングでバラナシを出る者数人とで連れ立って、「そんなもん知らん」と言い張るオートリキシャをなんとか走らせ、地図の示す場所に到着してみるとそこには



地球の迷い方め！！！！！！！！！！

旅の小ネタ

ミャンマービールの当り

いつ頃からだったか忘れたのですが、瓶のミャンマービールが、現在キャンペーン中です！！
ビールの栓をあけると、裏側がこんな風になっています。



一見、普通の栓ですが、実はこの白い部分をめくると



何やらミャンマー語が！！
これはチェズーティンバーデー
(ミャンマー語でありがとう)の意味でハズレです。



こちらは当たりの200kyats分の割引になります！！
他には50kyats、100kyats、500kyats、1000kyats、5000kyatsがあるようです。私は200kyats、1000kyatsしか当たったことがありません。が、1000kyats当たれば一本がほぼタダになるので、嬉しいです♪

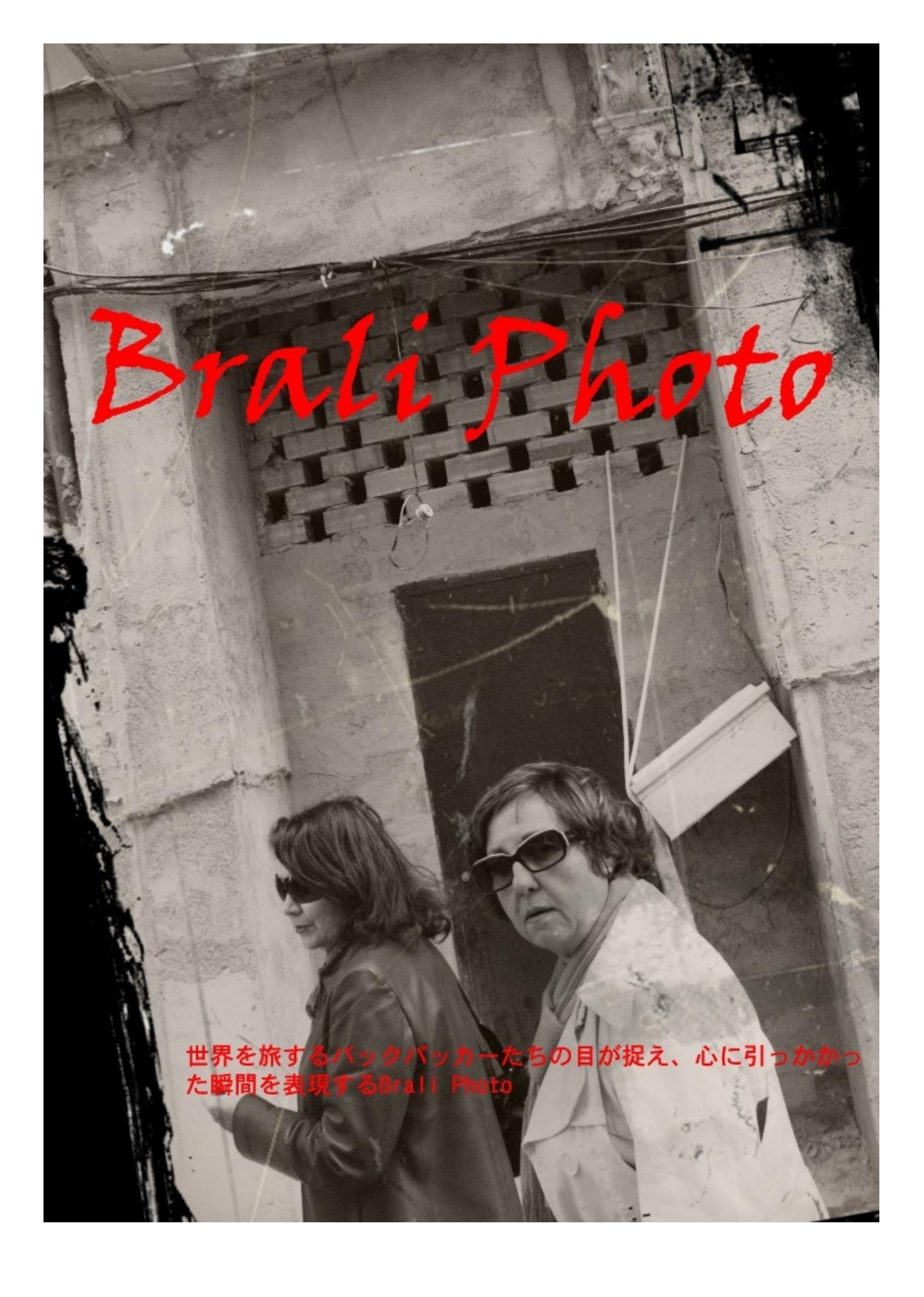
知らなかった方は、是非、栓の裏側をめくってみて下さい！

※補足 ミャンマービールのキャンペーンに100,000Kyatsもあるようで、割引になる、と書いたのですが、記載されている値段(例えば1000Kyatsだったら1000kyats分)のお金を貰えるそうです。

記事提供 : Ancient Futures

念願叶ってミャンマーで仕事を始めることになりました！ビジネスのビの字も分からないけど、大好きなミャンマーで頑張ります。

<http://blog.goo.ne.jp/ingyin>



Braili Photo

世界を旅するバックパッカーたちの目が捉え、心に引かれた瞬間を表現するBraili Photo



ワールドハッカー
元バックパッカー、現在は職業ハッカー。
ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。
<http://bit.ly/WorldHacks>
Brali Vol.1からVol.10まで10連続記事掲載・写真提供。



鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム
10秒84 (100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突
破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>



marrontino (マロンティーノ)
趣味はお料理です。肉じゃがとか得意かも～(肉無し)。



剣持仁

元バックパッカー。

”スノーボード” と、”旅” の2軸をテーマにしている写真家。

”好きな人と、好きな場所で、好きなこととして生きていきたい” という思いから、

現在、バンコクを拠点に活動中。

作者・情報提供者一覧

【作者・情報提供者一覧】

「旅人からの伝言 特集ラオス」 不発弾と共に生きる 本文&写真

高江洲直己(タカエス ナオキ)

沖縄出身。2012年8月から12月にかけてアジアを旅して回る。旅では様々な環境で生きる人たちと触れて回る。本旅終了後も次なる旅を計画中。

旅のブログ→高江洲直己公式サイト <http://naokitakaesu.tumblr.com/>

テーマ「旅先から見たニッポンのイトコ、ワルイトコ」 時間の感じ方を体験しよう

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:[@taniwheellie](https://twitter.com/taniwheellie)

テーマ「旅先から見たニッポンのイトコ、ワルイトコ」助けあうということ

田中美咲

全ての生きとし生きるものが幸せでありますように。少しでも多くの人が心から幸せである世の中を創りたい。

228日6大陸12旅26カ国64都市旅してきました。前世はインドの姫、全大陸野糞経験者です。

・田中美咲ブログ

<http://ameblo.jp/awesome-misaki/>

・助けあいジャパンプログ

<http://blog.canpan.info/tasukeaijapan/?1354673457>

エッセイ 旅ときどき・・・ 本文&写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccoccoc.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理...

最も楽に安くアンナプルナBCに行く方法

G o G o 市原

三度の飯よりビールとカツオの刺身が好きな高知人。

高校卒業～自衛隊～NZワーホリを経て、登山と写真に目覚め、世界一周を決意。

大阪を拠点に働いていたが、出稼ぎ先の長野 槍ヶ岳で最愛のパートナーが見つかり2012年6月から二人でケチケチな節約世界一周の旅に出発した。

<http://ameblo.jp/gogoichihara/entrylist.html>

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を回る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

アジア漂流日記 本文 & 写真

Chibirock

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選び分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

Ancient Futures

念願叶ってミャンマーで仕事を始めることになりました！ビジネスのビの字も分からないけど、大好きなミャンマーで頑張ります。

<http://blog.goo.ne.jp/ingyin>

【Brali Photo 誌上写真展】

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカー。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.10まで10連続記事掲載・写真提供。

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）
美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティ、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

marrontino（マロンティーノ）

趣味はお料理です。肉じゃがとか得意かも～（肉無し）。

剣持仁

元バックパッカー。

”スノーボード” と、”旅” の2軸をテーマにしている写真家。

”好きな人と、好きな場所で、好きなこととして生きていきたい” という思いから、

現在、バンコクを拠点に活動中。

【協力】

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイマッサージ依存症。ホワイト餃子。バックパッカー新聞編集長。

<http://backpackers-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

【広告】

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amande chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>

Instituto Cultural Oaxaca

<http://www.icomexico.com/jp/index.php>

編集後記 Fistera

メリークリスマス！あ、遅い。発行も遅れたし。良いお年を！早すぎる。今年も遅れながらも定期発行できました。また、サービスとしてサイトを立ち上げたりできました。来年は、もっと多くの人に目に触れ使っていただけるようにします。

今年は海外行けなかったし。軍艦島くらいしか行けなかったなあ。来年こそは。

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

そして、Facebookページもやってます！ぜひとも「いいね！」してください。

Twitterとは別の情報も掲載してますので。

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

さらには！NAVERまとめで旅に関することもまとめてますので、見てくださいね。

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や副業など検討の方向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画してます。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいません

ので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

mailto:bralimagazine@gmail.com

<http://brali.net/contact#.UIYstMUj6So>

次号予告（2013年2月25日発行予定）

次号予告（2013年2月25日発行予定）

- テーマ「仮）自分探し 改め 自分発見」
- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- 旅で使えるデジタルアプリ
- HANGOVER in the WORLD
- 旅人からの伝言「特集 ネパール」
- エッセイ旅トキドキ・・・
- トホホな話
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 最も楽に安くアンナプルナBCに行く方法
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
- 海外ボランティア体験談
- 巻末ショートコラム

記事と情報および写真の募集要項

次回のBraliの発行予定は2013年2月25日です。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選させていただきます。

★記事および情報

■テーマ「仮）自分探し 改め 自分発見」

目的は自分探しじゃない！でも、うっかり「こんな自分見つけちゃった。」とかないですか？例えば価値観の違いにビックリ。こんな価値観があるの知らない自分を知ったとか。「こんな行動とってしまうなんて、意外とチキンだなオレ」みたいな自分発見だったり。そんな自分発見のコレクションでもいいし、自分発見のストーリーでも送って下さい。

→1500字から2000字程度

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしています。

■旅人からの伝言 特集 ネパール

→1500字から2000字程度

■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教えてください。

■海外支援団体などの団体さん、活動PRや支援募集などBraliに無料掲載いたします。取り組みなどのPRなどにご利用ください。

■海外ボランティアツアーや海外青年協力隊参加などの体験談を大募集しています。旅行では体験できないことや、秘話などをお待ちしています。

■巻末ショートエッセイ→1000字以内のテーマは自由の旅に関する短文を募集します。旅で見たもの、感じたこと、はまったことなど。

→1000字以内

★写真

■Brali表紙用写真

ネパールで撮影された写真を募集します。

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

bralimagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://p.tl/Mi5K>

<http://bralimagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

奥付



Brali

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○Brali Circus イベントもブログの更新も旅に関することならなんでも拡散

<http://event.brali.net>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●NAVERまとめ

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<http://twitter.com/2moratorium>

【Braliの指針】

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。

また旅に出てみるのが、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見

つめなおすきっかけになります。

そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。

旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つとします。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と機会をメディアで提供し経験した人とは共有し、経験していない人へは追体験をしてもらいます。

また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランティアなど）仕組みづくりを行ないBraliも社会に寄与します。

編集：くりはらのぶゆき

発行：くりはらのぶゆき